



《Truth is stranger than fiction.》 真実は小説より奇なり

～世の中の実際の出来事は、虚構である小説よりもかえって不思議である。英国の詩人バイロンの言葉～
この世界で生きる人・生物、起こる事象に目を向けると興味深いことがたくさんあります。自分だったら見過ごしてしまう事に焦点を当てる人の目を通して見れば、新たな見方や考え方を増やし、新たな世界を知ることができます。今回は、そんなおもしろい本を集めました。

いや～、あっぱれ！

『水中さつえい大作戦』

中川雄三／文・写真・絵
福音館書店 K488

「カモが水中で実際に食べているところを見たい」と思い立った著者は、カモに気付かれずに写真を撮る作戦を考えます。

その1「カモぼうし作戦」。想像してください。カモの模型を頭にかぶり、シュノーケル姿で潜ります。それはそれは衝撃的な姿です。

さあ、どんな写真が撮れたのかも気になるでしょう。ぜひ、手に取ってみてください。(担当T)

「百の診療所より一本の用水路を」

『天、共に在り
アフガニスタン三十年の戦い』

中村哲／著
NHK 出版 333.8

内戦や外国の干渉によって混乱を極めるアフガニスタンを徹底的に打ちのめしたのは、大干ばつだった。医師として現地で活動していた中村哲は、医療以前の問題として、用水路を作ることにした。自らブルドーザーを操り、用水路建設に取り組んだ壮絶な記録。

※中村氏は2019年、銃撃により亡くなりました。心よりご冥福をお祈りいたします。(担当0)

「天才」が「天才」たる所以

『天才の思考』

鈴木敏夫／著
文藝春秋 778.7

今夏、映画館で再上映された「もののけ姫」を観て、アシタカのたくましさで心酔。カッコいい！あなたの好きなジブリ映画は何ですか？

そんな素敵なジブリ映画にも裏があった。プロデューサー鈴木敏夫が、高畑勲と宮崎駿との創作活動をさらけ出します。天才たる「奇」が満載で、何度となく笑いながら読了。映画ごとに書かれているので読みやすいです。(担当T)

それでも、山に登る

『垂直の記憶』

山野井泰史／著
山と溪谷社(ヤマケイ文庫)
Y292

狂っているかもしれないが、これが僕の人生なのだー。

数々の困難な登頂を成し遂げた世界的なクライマー、山野井泰史。過酷な登頂をいくつも成功させてきたが、ヒマラヤの難峰・ギャチュン・カンに挑戦することになり…。凍傷、雪崩、様々な困難が待ち受ける山に、自ら挑んでいく彼の足跡を追う。

(担当0)

昔話 VS 現代の法律

『昔話法廷 Season1』

NHK Eテレ「昔話法廷」制作班／編
今井雅子／原作・イマセン／法律監修
伊野孝行／挿画 金の星社 Y913



『三匹のこぶた』

被告人は、オオカミ殺しの三匹のこぶたの末っ子のトン三郎。

検察は刑法第199条の『殺人罪』を主張。対して弁護側は正当防衛で『無罪』を主張。ポイントは、トン三郎の正当防衛が認められるか。

昔話を現代の法律で捉えると、どう見えるか。「赤ずきん」など他の昔話のシリーズあり。(担当T)

私は「草木の精かもしれん」

『牧野富太郎

植物博士の人生図鑑』
コロナ・ブックス編集部／編
平凡社 289.1

最終学歴・小学校中退！にして、「日本の植物分類学の父」として知られる牧野富太郎。日本中の山野をかけめぐり、採集、研究し、約1500種類以上の植物を命名した。偉大な業績の根底にあるのは、ただひたすら植物を愛したということだろう。牧野の業績を美しい植物画・写真でたどる。牧野の満面の笑みの写真は必見！(担当0)

この発想はなかった！

『家をせおって歩く かんぜん版』
村上慧／作
福音館書店 K702

自作した発泡スチロールの家にすっぽり入り、そのまま日本全国、ひいては海外を歩いて、色んな場所に家を置いて眠る…。

家を背負いながら歩くのは大変ではないか？雨風はしのげるか？色々な心配をしてしまいますが、この便利な世の中にあえてこの生活を選んだ作者に、家や住むことに対するこだわりを感じます。ちょっと変わっているけれども、ロマンに満ちた生活を覗いてみよう。(担当I)

古墳＝かわいい！？

『まりこふんの古墳ブック』
まりこふん／著
山と溪谷社 210.3

古墳は大昔の人のお墓なので、地味で静かなイメージかもしれませんが、この本では古墳シンガーである著者が、「古墳＝かわいい」という独自の視点で、古墳を紹介しています。

古墳の形や由来を知る、かわいい装飾品を見る、古墳を実際に訪れる…読んだら、色んな古墳の楽しみ方がある事に気づくでしょう。(担当I)

空想は長い年月を経て…

『シュヴァル
夢の宮殿をたてた郵便配達夫』
岡谷公二／文 山根秀信／絵
福音館書店 K289

舞台はまだ自転車もなかった時代のフランス。郵便配達夫だったシュヴァルは毎日退屈しのぎで、理想の建物を思い描きながら歩いていた。ある日シュヴァルは石につまずいた。それがきっかけで、空想で描いた建物を石を拾い集めてつくることを決意する。途方もない計画で、周りからは変な目で見られるが、シュヴァルは気にせず地道に作り続けていく。完成した建物は、是非読んで確かめてください。(担当I)

おさるのジョージ、夫妻を救う

『戦争をくぐりぬけた
おさるのジョージ』
ルイーズ・ボーデン／文
アラン・ドラモンド／絵
福本友美子／訳 岩波書店 K726

“ひとまねこざる”、“おさるのジョージ”、小さい頃好きだった、という人も多いでしょう。

実は、このかわいいジョージが生まれた背景には、作者レイ夫妻の戦争体験があったのです。ナチスの侵攻をのがれて、二人はアメリカに渡ることになるのですが…。

読んだらきっと、おさるのジョージにまた会いたくなるはずですよ。(担当O)

バッタに食べられたい！

『バッタを倒しにアフリカへ』
前野ウルド浩太郎／著
光文社 486.4

著者はバッタ研究を続けてきたが、就職先に困っていた。一方アフリカでは、バッタが大量発生し、農作物を喰い荒らし深刻な問題になっていた。

この2つの問題を一気に解決すべく、著者はバッタの生態を明らかにしようと単身でアフリカに乗り込んだ。バッタ愛に溢れる男による、笑いあり涙ありのアフリカ奮闘記。(担当I)

感謝しております！

『世界の科学者まるわかり図鑑』
藤嶋昭／監修
学研プラス K402

科学技術が私たちの生活に欠かせないことは、紛れもない事実です。

この本には、研究者達の活躍が約見開き1ページで紹介されています。科学のおもしろさはもちろん、研究者たちの気づきや熱意、努力に驚き、刺激を受けます。

日々の生活に感謝の気持ちを持ち、そして身の回りの事象への関心が高まるでしょう。(担当T)



図書館では、コロナウイルス感染拡大防止のため、一部サービスを制限して開館をしています。詳しい情報はホームページで確認をしてください。自分と周りの人の健康を第一に考えた上で、ぜひ図書館に来て読書を楽しんでください。



編集後記

自分のこだわりを追求した人の本は面白いです。そんな人生は大変だとも思いますが、うらやましいと思います。(担当I)

『天、共に在り』を読んでから、この世界に今、中村氏がないということが悲しくてなりません。(担当O)

今号が、IとTとOの3人で作成する最後の通信となりました。作り出す苦しさもありましたが、楽しさが優勝！(担当T)